

## 『雨だれの前奏曲』

新潟清心女子中学校

三年 丸山 季桜里

客席から大きな拍手が鳴り響いた。鍵盤から手を離して、椅子からゆつくりと立ち上がる。ステージの真ん中に立って、胸を張ってお辞儀をした。「お辞儀だけでも堂々と。」ピアノの先生に言われたことだ。顔を上げる。私は弾ききった。弾ききったんだ。私がピアノを始めたのは四歳の頃。それから続けて、今年で十二年目になる。そして毎年夏になると、一人一人の一年の練習の成果を発揮する、発表会が行われるのだ。私は今年の発表会で、前からずっと弾きたいと思っていた、シヨパン作曲の『雨だれの前奏曲』を弾くことに決めた。技術力だけでなく、表現力も必要となる難しい曲だが、中学生最後の発表会になるし挑戦してみることにした。

練習はとても苦戦した。楽譜に調号がいっぱいついていて、楽譜を読むのに時間がかかり、いざ弾いてみても、片手で一オクターブ以上を押さえないければいけないところがあったりする。私は早くも挫折しそうだった。「なんでこんな曲選んだんだ！」と楽譜を投げ捨てたいような気持ちだった。でも、そんな時、母が「この曲、もし弾けるようになったらすごくすてきだね。頑張つて！」と声をかけてくれた。発表会には両親が見に来る。今年は、私の成長

した姿をぜひ見てほしい！ 私はそれから、毎日一回はその曲を練習することに決めた。少しずつ、弾けるところが増えていく。

しかし、毎週のレッスンはあまりうまくいっていなかった。その中でも特に、曲の強弱については厳しく注意された。最初の部分はP（ピアノ）。でも、メロディーの出だしは小さくなりすぎずに。右手と左手のバランスを常に気をつけて。アクセントは鋭くなりすぎずに。そして、一番最後は消え入るように……。毎週毎週、新しい注意が増え続けた。直していくが、前に注意されたところを忘れて、また注意され……。

レッスン中は抑えていたが、家に帰った後、自分の部屋で泣いたこともあった。怒られたのが嫌だったのではない。自分の集中力の無さが、注意されたところを全部覚えられなかった記憶力が、なかなか理想どおりに動かない指が、腹立たしくって情けなくって……。

じゃあ、それを直すにはどうしたらいいのか。それはもう、ひたすら練習するしかない。夕食の前に弾き、勉強中にはプロの演奏を聞き、勉強が終わってからまた弾き、寝る前にも弾いた。忙しい日は楽譜を眺める。間違ったところ、うまくいかなかったところは何回もくり返し練習した。こうして私は、発表会までに曲を完成させることができたのだ。

そうして迎えた発表会当日。会場に向かう車に乗っている間、私は両手を閉じたり開いたりして、手を温めた。指先も、練習どおり動くよう、念入りにマッサージをしておく。車の中で、発表会前、最後のレッスンで先生がかけてくれた言葉を思い出した。「自分が楽しんで弾ければ、それが一番だよ。」今日は発表会を楽しもう。自分の演奏も、自信を持って精いっぱい……。会場に入ると、もう人が集まっ

ていた。自分より小さい子達もたくさんいる。みんな私と同じように、頑張つて練習してきたのだろう。そう思うと、なんだか緊張がほぐれていく気がした。本番。演奏は、小さい子から順番に発表となる。ステージの上での発表で、うまくいく子もいれば、緊張のせいか間違えてしまった子もいる。でも、みんな演奏後は晴れやかな顔でお辞儀をして、ステージ袖へ歩いていくのだ。だんだん出番が近づいてきた。手汗が止まらない。スカートの裾を握りしめた。そして、私の番！

「プログラム二十二番……」アナウンスが流れる。私は一度、大きな深呼吸をして、ステージへゆつくりと歩いていった。背筋を伸ばして、堂々と。上からの照明がとても眩しかった。ピアノの前にある椅子に座る。足元のペダルの位置を確認した。準備は万全。静かに両手を鍵盤の上におく。一度呼吸をして、最初の音。メロディーは小さくなりすぎず。右手と左手のバランスに注意して。だんだん曲が盛り上がってきた。でもアクセントは鋭くなりすぎず。曲の暗い部分になる。小さく小さく、そしてクレッシェンド！ 音量が大きくなり、盛り上がりきった後は、だんだん落ちていく。最後の部分。どんな音は小さくして、消え入るように……。最後の音。綺麗に響いた。「練習の成果が発揮できた！」最後の音を聞きながら、私はとても嬉しい気持ちになつていた。

こうして、今年の発表会で私は自分の成長を感じることができた。でも、今年で終わりじゃない。また来年も再来年も、ピアノを弾き続けたい。そして毎年、この夏の発表会へ挑戦し続けるのだ。

## 作文を書くに当たって

シヨパンの「雨だれの前奏曲」は、私がピアノを始めた頃から弾きたいとあこがれていた曲でした。ピアノを始めて12年の今年は、中学3年生という大きな区切りの年だったのでこの曲に挑戦してみたいと思いました。この作文を読んで、練習の大変さや本番の緊張、弾ききった達成感が伝わると嬉しいです。